

令和5年5月25日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報 告）

ア 学校における働き方改革実証について

※教育総務課長から資料に基づき説明

（安田委員）令和5年度から始める業務改善策はあるか。

（教育総務課長）令和5年度は、事業者から提案のあった業務改善策について、費用対効果等を検証し、予算確保等を含めて取組スケジュールを作成していく予定である。

（安田委員）実証実験でスマートキーを導入した学校は、効果があるものとして今後も継続して使用することができるのか。

（教育総務課長）実証実験で学校へ導入したスマートキーは、事業者から無償提供を受けて仮導入した機器であるため、一度撤去し、市として改めて実装に向けて予算確保やスケジュール等の検討を進めていく予定である。

イ 令和5年度浜松市放課後児童会登録児童数及び待機児童数について

※教育総務課学校・地域連携担当課長から資料に基づき説明

（黒柳委員）表1によれば、北区で放課後児童会設置箇所が前年から1箇所増えている。この1箇所増により、北区の待機児童が大幅に減少したということか。

（教育総務課学校・地域連携担当課長）放課後児童会の箇所数を1箇所増設したほか、学校の空き教室の活用を促進したことで各児童会の定員が増え、北区の待機児童数が減少したものである。

（黒柳委員）表3によれば、北区・西区の低学年の待機児童数は、1～2人と少数である。少数であれば、何とか受け入れすることができないか。

（教育総務課学校・地域連携担当課長）できる限り受け入れられるよう対応しているが、希望する小学校区の児童会の施設の空き状況や支援員数等の状況により、受け入れが難しい児童会がある。

ウ 令和4年度学校施設等の被害状況について

※教育施設課長から資料に基づき説明

(安田委員) 防犯カメラは現状何台設置しているのか。

(教育施設課長) 現在、防犯カメラは8台設置しており、その内訳は常設が2台、臨時的な設置が6台である。設置後は、被害が発生していないことから抑止力になっているのではないかと考えている。

(黒柳委員) 事故内容のうち不法侵入とあるが、校舎内に侵入されたケースはあるのか。センサーライトは、多くの学校に設置でき、防犯効果があるのではないかと。

(教育施設課長) 敷地内への侵入と校舎内への侵入どちらも発生しており、昨年度は、事故発生を受けて18台のセンサーライトを増設した。被害が発生した際は、随時対策を講じており、令和4年度はおよそ250万円の経費を投じて防犯対策を行った。

(鈴木委員) 防犯カメラは2校で各1台設置しているのか。また、24時間対応か。

(教育施設課長) 防犯カメラは1校で2台設置している。24時間対応である。

エ 令和4年度教職員の体罰・不適切な言動に関する調査結果について

※教職員課長から資料に基づき説明

(安田委員) 指導措置の対象となった教員の年代について教えていただきたい。また、指導措置に対する本人の受け止めはどうか。

(教職員課長) 20代1人、30代1人である。各学校でケースメソッドや倫理研修など体罰・不適切な言動に関する研修等を行っていたが、自分事として捉えることができていなかったようである。再発防止のため教育委員会から厳重注意するとともに、校長に対しては継続観察するよう指示をしている。

(安田委員) 若い世代の教員が指導措置の対象となったということだが、きちんとした指導により良い教員となっていただきたい。

(黒柳委員) 根絶に向けた取組として40～50代を対象とした研修における啓発とあったが、すべての世代に対し研修を行い、体罰や不適切発言に対する強い意識を持っていただきたい。

(教職員課長) 各学校では管理職による面談等を実施しているため、機会を捉えて各教員へ指導するよう促している。

(学校教育部長) 教職員一人一人が自分事として捉えることが重要だと考えている。実際に学校で起きた具体事例を取り上げるケースメソッド研修を通して、身近に起こり得る問題であることを認識してもらうことは、改善につながるのではないかと。また、熱意のある教員が行き過ぎた指導や言動をして、体罰や不適切な言動につながることもある。本人の価値観が相手に同じように受け止められるとは限らないことを学ぶアンガーマネジメント研修や、アンコンシャス・バイアス研修なども効果があるのではないかと考えている。

オ 令和6年度採用浜松市立小・中学校教員採用選考試験志願状況について

※教職員課採用管理担当課長から資料に基づき説明

(神谷委員) 志願者が増加したことは良い傾向だが、質の高い教員の確保という点ではどのように考えているか。また、質の高い教員確保のため工夫したことはあるか。

(教職員課採用管理担当課長) 浜松市は令和2年度から大学等推薦特別選考を導入している。浜松市が求める人材を大学側に理解してもらったうえで推薦を受けていることから、質の確保につながっていると考えている。また、面接選考において人物をみることを重視しており、他都市で現職教員として勤務していた志願者であっても面接を実施し、教員として適性があるか判断している。

(安田委員) 全国的に教員志願者が減少傾向にある一方で、志願者が増加しているのは、教職員課の様々な取組が実を結んだ結果だと感じる。教員の仕事の大変さが注目されがちだが、現場の教員はやりがいを感じる場面やすばらしい体験があると話している。また、働き方改革も進んでいることなどもPRしていただき、今後も志願者確保に努めていただきたい。

(学校教育部長) 質の高い教員を確保するためには、より多くの応募が必要であり、試験制度や選考のあり方にも工夫が必要である。今年度は前年度に比べ、大学からの推薦による志願者数は減少しているが、他都市との競争が激しくなった結果ではないか。教職員課では、数年前から様々な大学へ出向いてリクルート活動をしており、大学との信頼関係が構築されているため、今後もこの関係性を維持して浜松市が求める教員として適性のある学生を推薦していただきたいと考えている。

カ 令和4年度問題行動・不登校及びいじめの実態について

※指導課長、教育支援課長から資料に基づき説明

(安田委員) 問題行動のうち粗暴の件数が増えているが、その対象者は誰か。また、小学校で増加している原因をどう考えているか。

(指導課長) 半数以上が児童生徒間で発生したものである。そのほか、教員に対する粗暴、器物破損などがある。粗暴の多くは男子であり、小学校6年生から中学校1年生は、発達課題や特性に対する悩みなど、年代的に自分自身のコントロールがうまくいかない時期だと捉えている。SSWやSCを活用しながら連携して対応していきたい。

(安田委員) タブレット端末を利用した「はままついじめアンケート」は既に実施されているのか。

(指導課長) 今年度1学期にモデル校において実施、2学期からは全校で実施する。アンケートは20問程度で、いじめがいつどんなふうに起きたかなど、自分自身のこと、周囲で見聞きしたことなどを回答するものである。自宅に持ち帰って回答することもできるため、家庭で子供の回答する様子を見ることも可能である。入力した内容は、危険度・重要度に応じて自動分析され色分けして表示されるため、即座に対策をとることができるようになる。

(安田委員) 不登校について、様々な対策をしているが不登校児童生徒の人数は増えている。先日、文部科学省が策定した「COCOLOプラン」は、不登校であっても学びにアクセスできない子供をゼロにすることが目標とされている。これからの支援の形として、学びの保障という視点が重要だと感じた。

(鈴木委員) 問題行動について粗暴などの理由で日本スポーツ振興センターへ申請して給付を受けた件数などわかれば教えていただきたい。

(健康安全課) 申請件数は8件である。

(神谷委員) 教員がすべてのいじめを発見することは難しい。相談窓口やアンケートなど、いつでもどこでも様々な方法があることが重要である。不登校についてもしばらくの間、学校に行けず不登校であった子供が何年かぶりに登校できるようになったという話もあり、長い目で支援を継続していくことを期待したい。

(教育支援課長) 不登校の子供に対して、各学校の教員が負担にならない範囲で声かけや働きかけをしている。今後もそれを継続していきたい。

キ 令和5年度浜松市奨学生(継続貸与者)の選考結果について

※教育支援課長から資料に基づき説明

質疑なし